

宇都宮民報

—発行—
日本共産党
宇都宮市委員会
弥生1丁目7-11
旭コーポ1階
TEL634-8722

政治経済の要する、
読者のためをこころ
しんぶん 赤旗
日刊 毎月 3497円
口増 毎月 930円

戦争のない 平和な時代をつなげよう



終戦記念日 猛暑の中訴え

終戦から75年目の記念日を迎えた8月15日、日本共産党宇都宮市議員団の福田くみ子・天谷みえ子・原ちづる議員は、野村せつ子県議とともに、街頭に立ちました。

も相まって、例年にないお盆を迎えることとなった市内。街頭からの訴えを行ったアピ夕宇都宮店近辺もいつもより人も出は少ない感じでした。炎天下での訴えに拘わらず耳を傾ける人、遠くから手を振る人、車を止めて声援を送る人などもあり、関心の高さを感じました。

炎天下で訴える(左から)福田、原、天谷各市議と野村県議

原市議は、宇都宮大空襲や市の平和の取り組みなどを紹介、天谷市議は、戦争体験を語り継ぐ大切さを訴えました。また、野村県議は、「8月15日」という先人の俳句を紹介し、日本人の戦争と平和への思いと現政権の危うさを、最後に福田市議は総選挙での政権交代を訴えました。

戦争体験を聴く——久賀伊二さん(91歳)

今年、終戦から75年を迎えました。戦時中の体験を、私たち戦後生まれの世代が語り継いでいくことが大切ではないかと思い、長年日本共産党宇都宮市後援会長をつとめてこられた久賀伊二さんを訪ねました。



久賀伊二さん

私が終戦を迎えたのは石川県の小松市にある小松飛行場であった。

憧れの予科練へ
当時16歳で「甲種予科練習生」に合格した。軍国少年であった私は、旧制中学2年の時学校に将校がやってきて、予科練生を募集したことがきっかけで志願して受験をしたのだった。

霞ヶ浦にある海軍航空隊に行くものだと思っていたが、配属されたのは奈良県丹波市(たんばいち)町であった。そこで予科練生としての訓練を受けていた。

予科練では食料事情は悪くなく、入隊前には栄養失調で眼が悪かったが予科練に入ってから眼は治ったくらいだった。

ただ軍隊式の訓練はつらく、1人が遅れたりすると連帯責任で皆が整列せられお尻を並べて棒を持った教官になぐられるのだった。「四月馬鹿 予科練くらったバツ棒 伊二」

丹波市から石川県の小松飛行場に移動したが、訓練に使う飛行機は1機もなく、能登半島の七尾で山を崩して飛行機用の掩体壕(空襲から戦闘機を守り、隠しておくための格納施設)造りなどに従事していた。

玉音放送

小松飛行場に戻るよう命令されそこで天皇の玉音放送を聞いた。何を言ったのか理解できなかったが、将校が「負けた!」と言ってどこかに立ち去ってしまったため敗戦を悟った。

焼野原の宇都宮へ

東武線で宇都宮にたどり

着いたのは8月末であったが、駅舎からみる宇都宮の街が焼け野原であり驚いてしまった。7月12日夜の空襲で街中が焼け出されたのだった。つきり自宅もないものと思ったが、両親も自宅も無事であった。

戦後中学に戻り再入学をして現県立宇都宮高校の1回生として卒業することができた。

中学時代から社会科学を勉強していた私は、卒業後「関東配電」に勤務し労働組合青年部で活動した。やがてレッドパージで会社を追われることになった。



戦後75年が経ち戦争の時代を語る人が年々少なくなっています。私たちは二度とあの悲惨な戦争を起こしてはいけなないと心に誓い、戦後を生き抜いた先輩たちの苦勞を無駄にしないよう平和の大切さを伝えていきたいと改めて思いました。

(天谷・記)

宇都宮市PCR検査センター延長決まる

宇都宮市では当初、5月13日から8月12日までを、「宇都宮市PCR検査センター」の開設・運営期間としていました。

8月にはいつてから、新型コロナウイルス感染症の患者が市内でも急増しており検査センターの設置延長が決まりました。

日本共産党宇都宮市議員団は、7月21日に、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急申し入れ」を市長に対して行いました。その中で拡大傾向にある感染者に対応するためにもPCR検査センターの設置延長を求めてきました。

共産党の申し入れにも応える形で、センターの設置延長が決まったものです。

構成劇「私たちは忘れない」グループきゅう



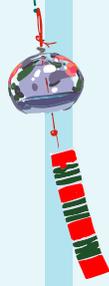
コロナ禍の中、「グループきゅう」は、新しい試みとして野外での上演に挑みました。

長かった梅雨が明けて絶好の上演日和となりました。会場は美術館芝生広場には思い思いの椅子や敷物を持った観客が50人以上も集まりました。

観劇を楽しみました。広島市の原爆投下を題材にしたこの構成劇では、安生正人氏の奏でるハーブ演奏が重要な役割を果たしていました。

毎年新たな挑戦で平和の大切さを訴えている、脚本担当の豊口政子さんは、コロナ禍の中でも新しい形で上演できたことに、満面の笑みで花束を受け取っていました。

平和を願う夏



多くの人に見てほしい原爆パネル展

コロナの影響で原水爆禁止世界大会が縮小される中、「平和の波」の取り組みとして新婦人主催の原爆パネル展が開催され、市議員団も見学に行きました。

写真パネルと共に、原爆当時の話を聞きその様子を絵として残す取り組みをしている、広島基町高校の生徒さんの作品も展示されていました。

天谷みえ子市議は「焼き場に立つ少年」に心を揺さぶられる。」と、原ちづる市議は「近くにいた学生が、お弁当そつちのけで食い入るように見ていた姿が印象的だった。」と感想を述べました。主催者の須藤さんは、「もっと多くの人に見てもらいたい。」と話していました。



梅村予定候補駆ける

フラワーデモ

8月10日、JR宇都宮駅ペディストリアンデッキでフラワーデモが行われました。汗が流れる猛暑の中での行動でしたが、梅村さえ子衆院北関東比例予定候補も駆けつけ、10人以上がスタンディングに参加しました。梅村候補はガーベラを手に、通る方々に呼びかけました。

野村県議、福田市議、原市議も参加しました。



女性の力で党を大きく

日本共産党宇都宮女性後援会



8月10日午後、衆院北関東比例予定候補である梅村さえ子さんを招いて、「学習交流のつどい」が開かれました。

つどいでは、日本共産党創立98周年の記念講演のDVDダイジェスト版を視聴。

その後、野村県議から現在の栃木県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況や、県での対策について報告がありました。

梅村さんからは、国会の状況はじめ地域の商店街の皆さんの声、学校の子どもの様子などのお話がありました。「この間の日本共産党の活動は、政府への提言など目を見張るものがあります。ジェンダー平等をかけた、世帯主制度の廃止を打ち出したのもすごいことです。女性の力で是非この党を大きくしていきたいでしょう！」と訴えがありました。

日本共産党宇都宮市議員団 定例無料

市政・法律なんでも相談会

雇用問題・多重債務・生活保護・年金・国保・住宅
道路・交通安全・その他なんでも・・・

◇日時 9月12日(土) 午後2～4時
10月10日(土)

◇会場 宇都宮市総合コミュニティーセンター

◇連絡先 日中 TEL632-2622 (党市議員団控室)
土・日・夜間 TEL634-8722 (党市委員会)

相談ご希望の方はできる限り事前にご連絡をお願いします。
秘密厳守します。弁護士が協力します。

※8月の相談はお休みします。